

科目責任者 古谷 紳太郎

■ 教育目的

本科目の目的は、歴史と歴史学の違いを理解すること、歴史学の素養をもとに、過去と未来の間に現在を位置付け直すことにある。本科目では、とくに科学・技術の歴史を軸に世界史を振り返り、現代社会を形成する要素がどのようにして現れてきたのかを学ぶ。

■ 学習到達目標

1. 歴史学的教養の意義を人に説明できるようになること。
2. 歴史学的教養を踏まえて、現在のテーマについてのディスカッションができるようになること。

■ 準備学習（予習・復習）

予習 授業で取り上げる時期について教科書の該当箇所を読み、教科書中の内容で興味を持ったテーマについてインターネット等を使って調べてくること。

復習 授業で配られた資料や紹介した文献を読むこと。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	導入	授業の進め方、学習の仕方、評価方法についてのガイダンス。歴史と歴史学の違いおよび歴史学を学ぶ意義。	
2	歴史学とは何か	歴史学の歴史の概観。	
3	古代における科学	自然哲学。	
4	古代における科学	アリストテレスの哲学体系と自然学。	
5	古代末期から中世の科学1	ローマの興亡と知識の伝承。	
6	古代末期から中世の科学2	知識人と大学の登場と12世紀ルネサンス。	
7	中世の科学	スコラ学の成立。	
8	近世の技術	近世と技術的な発達と自然観の変化。	
9	近世の科学	17世紀科学革命。	
10	近代科学発展の背景	産業革命と市民革命	
11	近代科学発展の背景	近代化と電気・化学工業	
12	現代科学1	現代科学の基礎。	
13	現代科学2	科学研究の現在。	
14	グループディスカッション	登録人数によって歴史学についての追加講義。	
15	まとめ	まとめと質疑応答。第14回でグループディスカッションを行った場合は、内容発表。	

■ 授業分担者

古谷紳太郎 (No. 1～15)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

毎回のコメントシートと期末レポートで評価する。フィードバックは、前回のコメントシートを踏まえて次回の授業で行う。

期末レポートの点数 (50%)、平常点 (50%)

期末レポートは、参考書から2冊以上を選んで論じること。テーマについては授業中に示す。

■ 教科書

アカデミア世界史

■ 参考書

レーオポルト・フォン・ランケ、村岡哲（訳）『世界史の流れ—ヨーロッパの近・現代を考える』、ちくま学芸文庫

リュシアン・フェーブル、長谷川輝夫（訳）『歴史のための闘い』、平凡社ライブラリー

マルク・ブロック、高橋清徳（訳）『比較史の方法』、講談社学術文庫

フェルナン・ブローデル、清水幾太郎（訳）『歴史入門』、中公文庫

E・H・カー、『歴史学とは何か』、岩波新書

チャールズ・H・ハスキンス、別宮貞徳・朝倉文一（訳）『十二世紀のルネサンス—ヨーロッパの目覚め』、講談社学術文庫

アーノルド・J・トインビー，吉田健一（訳）『現代が受けている挑戦』，新潮文庫
カール・ポパー，岩坂彰（訳）『歴史主義の貧困』，日経 BP 社
トーマス・クーン，中山茂（訳）『科学革命の構造』，みすず書房
ジョン・ヘンリー，東慎一郎（訳）『一七世紀科学革（ヨーロッパ史入門）』，岩波書店